

2019年度 寺山公園子育て交流施設「いーてらす」利用状況報告書

1. 年間利用者総数 153,424 人
 前年度 180,125 人 前年度比(100) 85.2 % 26,701 人減

平成30年4月8日開館以来の延来館者数 333,549 人

年間総開館日数 281 日
 1日平均利用者数 546.0 人

2. 区分別利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
月別開館日数		26	25	26	26	27	26	26	26	24	24	25	0	281	
利用者数	0~小3	計	7,851	7,798	6,647	6,465	7,649	8,048	7,541	7,166	5,863	7,432	7,178	0	79,638
		1日平均	302.0	311.9	255.7	248.7	283.3	309.5	290.0	275.6	244.3	309.7	287.1	0.0	283.4
	小学4年生以上	計	103	132	63	60	98	75	48	59	26	55	40	0	759
		1日平均	4.0	5.3	2.4	2.3	3.6	2.9	1.8	2.3	1.1	2.3	1.6	0.0	2.7
	保護者等	計	6,984	7,375	6,017	5,763	6,662	7,229	6,695	6,357	5,265	6,673	6,457	0	71,477
		1日平均	268.6	295.0	231.4	221.7	246.7	278.0	257.5	244.5	219.4	278.0	258.3	0.0	254.4
	ボランティア	計	8	17	0	0	4	0	3	0	0	0	6	0	38
		1日平均	0.3	0.7	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1
	見学	計	163	67	27	34	38	50	10	298	23	25	11	0	746
		1日平均	6.3	2.7	1.0	1.3	1.4	1.9	0.4	11.5	1.0	1.0	0.4	0.0	2.7
	団体	計	0	209	112	0	18	210	96	12	0	71	38	0	766
		1日平均	0.0	8.4	4.3	0.0	0.7	8.1	3.7	0.5	0.0	3.0	1.5	0.0	2.7
	合計	計	15,109	15,598	12,866	12,322	14,469	15,612	14,393	13,892	11,177	14,256	13,730	0	153,424
		1日平均	581.1	623.9	494.8	473.9	535.9	600.5	553.6	534.3	465.7	594.0	549.2	0.0	546.0

新規登録世帯数 1日平均 / 21.0世帯

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規登録世帯数	770	746	535	513	565	582	568	478	309	444	388	0	5,898

利用者登録世帯数 (2019/4/1~2020/3/31)

登録世帯	東区	中央区	北区	秋葉区	西区	南区	西蒲区	江南区	新潟市外	県外	合計
登録世帯数	1,300	1,237	466	293	793	87	79	448	953	242	5,898
割合	22.0%	21.0%	7.9%	5.0%	13.4%	1.5%	1.3%	7.6%	16.2%	4.1%	100.0%

年間運営総括及び来期への課題

・利用者との親しみが更に深まった1年だった。平日、毎日のように遊びに来てくれている親子や、土日に1日中館内で過ごしている常連の親子の姿を見ると、利用者にとって、『い〜てらす』が“居場所”となっていることを実感出来た。一時預かりやイベントを目当てに来館する利用者もいて、それぞれのニーズにあわせながら、施設を活用してもらえていることがうかがえた。一方で、初めて来館したという利用者も、変わらず多かった。週末の様子は前年度と変わりなく、1日の来館者数が1,000人を超える日も少なくなかった。年間の利用者数は15万人を超え、開館以来の延べ来館者数は30万人を超えた。新設の施設である関心や目新しさが続くなか、リピーターが着々と増えている印象を受けた。

・年間で766件の一時預かりを受け付けた。キャンセルになったものを含めると、980件を超え、前年度に比べて、およそ5割増しの件数となった。その多くがリピーターによる利用だった。少人数での手厚い保育が、保護者にとっても子どもたちにとっても安心できる魅力的な環境となっている。予約が始まるとすぐに満員となり、希望に応えられないことがある現況を打開するため、来期は保育スタッフの増員を課題としたい。

・年間を通して、イベントが充実していた。『おしゃべりテラス』では、昨年度、毎週通い続けてくださった母親2名に、今期からはファシリテーターとして参加して頂いている。同じ子育てママの視点から、子育てに関する悩みや情報交換など、さまざまな話を引き出す立場となってくださっている。初めは少し緊張した面持ちで来館する参加者も多いが、始まってみると、イベントが終わったあともなお話が弾み、しばらく会場に残ってから、満足した様子で帰られる母親たちの姿を毎回見かけるようになった。こうした『おしゃべりテラス』をはじめ、利用者との出会いをきっかけに実施されているイベントが他にもある。「英語のイベントをやりたい」という申し出を利用者のひとりから頂いたときは、職員とともに入念な準備をして、ハロウィンの時期に実現することが出来た。バイオリンコンサートも、奏者との出会いは、利用者として来館して下さっているときだった。本当にいい出会いに恵まれ、利用者とともに施設としての取り組みが発展していることを実感する。今後も一つひとつの出会いを大切にしていきたい。

・今期から小学4年生以上を対象に『こどもボランティア』が発足した。登録している子どもたちは活動に積極的で、大きなイベントのみならず、普段から放課後來館し、遊びに来ている親子の前で、絵本の読み聞かせやダンスなどをいきいきと披露してくれている。開館して2年が経ち、利用対象年齢を越えた子どもたちにも、変わらず『い〜てらす』との繋がりを感じ続けてもらえるよう、来期は『こどもボランティア』の活躍の場を更に広げていければと考える。

・地域が、この施設を“活用してみたい”存在として感じ始めていることが、一年を通して実感出来た。牡丹山・木戸地区の幼、小、中連携事業としての講演会や、地域の

薬局主催の『すくすく健康フェア』などが、施設を会場に行われた。公園を使った催しとしては、『寺山こい来いフェスタ』、『寺山なつまつり～縁日ごっこ盆踊り～』が開催された。これらは、自治体や地域が一体となって実施出来た大きなイベントだった。各部署と連携出来たことは、施設にとって大きな収穫となった。来期は、東区の『ふゆまつり』の委託を良しとして頂き、地域の子育て支援施設などと協同し、公園を利用して実施したいと考えている。これに秋の『寺山こどもまつり』を加えることで、春夏秋冬、一年を通した催しで公園を有効活用出来ることとなる。公園と施設を利用したまちづくりがさらに発展するよう、自治体、地域との連携に、より一層力を入れていきたい。

総括・自己評価

・年間で15万3,424人の来館があった。平日は300~400人、土日は800~1,000人ほどの利用人数だった。週末は昨年度と同様に、1,000人を超える日も少なくなかった。全体的な数字を見ると昨年度よりも減少しているが、新設の施設であることへの注目は、今もなお続いているように感じられた。テレビ、ラジオ、新聞、地域の広報誌など、さまざまなメディアで取りあげて頂けたことも、施設をより広く知ってもらえる機会となった。多くの利用を頂いているなか、安全面に関して十分配慮を続けていたが、防ぐことの出来ない怪我也もあった。開館以来、初めて保険対応となった怪我也起きてしまった。大事に至らなかったことが不幸中の幸いだった。安全面への配慮の徹底はもちろん、万が一、怪我や事故が起きた場合の迅速で的確な対応を職員一人ひとりが改めて意識した。

・利用者とのかかわりが、さらに深まった1年だった。そんな中、よく施設を利用してきている親子が家庭内に深い問題を抱えていることを知った。各関係機関との連携や情報提供など、子育て支援施設としての役割を強く再認識しながら、対応に努めた。開館当初は“遊び場”としての利用の多さから、ひたすらに安全な利用を提供することが求められたが、利用者一人ひとりとの心の距離が近づいている今、子育て支援の立場として施設の特徴が変化してきていることが感じられた。

・毎月平日に行なっている定番のイベントに加え、土休日に行なうイベントが昨年度に続き好評を博している。参加型で、家族単位の大きなイベント、特に体を動かして楽しめる内容が人気であることが利用者の反応からうかがえた。その他にも今年度は、『ダンスタイム』や『ボードゲームであそぼう』『おりがみタイム』『おにごっこタイム』など、行事だよりには載っていないイベントを数多く行なった。これらは、その日、遊びに来ている子どもたちの様子を見て実施を決めたり、一週間前に決めたり・・・と、利用者にとって楽しいことをその都度、状況にあわせ提供できた点から、非常に有意義なイベントだった。なかでも『ダンスタイム』は、利用者から「今日はダンスタイムありますか？」と頻りに声を掛けられ応えていくうちに、自然と定着したイベントだった。この一年で、“い～てらすといえばダンス”というイメージが、利用者の間にも職員の間にも、すっかりと浸透した。

・新たな試みとして、『0円バザー』を開催した。使わなくなった子ども用品を無料でお譲りするという企画で、寄付を募ったところ、多くの品物が集まった。当日は、173人もの参加があり、大行列が出来た。それでもまだ品物があったため、計3日間開催したところ、のべ277人の方が来て下さった。多くの人から、今後もまた開催してほしいという声を頂いた。来期も定着させていきたい。

・昨年度からの念願だった長岡市への視察研修が実現した。ほぼ全員が、長岡市の3

施設への視察を経験することが出来た。1年間、施設を運営してからの他現場への見学・視察は大きな学びがあった。一人ひとり、違う視点から気づきを得ていたところも面白かった。この研修をはじめ、職員の前向きな姿勢が、施設全体の前進へと繋がっている。今年度からはSNSを利用した広報活動も始まった。新たな試みに加え、今行なっていることへの見直しも実践した。週末あまりに利用の多い、ぬりえの貸出方法やトランポリンの利用方法の見直し、赤ちゃんコーナーの移動など、些細なことだが、職員全員でその都度、改善策を話し合い取り入れてきた。そのなかで、保護者から厳しい意見を頂く機会もあった。利用者の思いに寄り添いながら、利用者とともに施設が成長出来るよう、今後も柔軟で前向きな姿勢を続けていきたい。

・10月、台風により『寺山こどもまつり』が中止となった。2月末には、新型コロナウイルス対策に関する対応のため、運営委員会が実質上の中止となり、3月からは感染拡大防止のため、1か月の間、臨時休館となった。誰もが経験したことのない事態に、情報収集や対応に追われた日々だった。関係機関と連携し、施設の危機管理に万全を期していきたい。